

レビューシート

様式 1

レビュー項目 (事業名)	学校との連携強化による地域の相談支援機能の充実				部(局)	県民生活部	
					所管課	男女青少年課	
					担当班	青少年育成班	
					連絡先	内線2748	
開始年度	令和6年度	終了年度	—	関連計画等			
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等	NPO等地域支援団体	
事業目的	ひきこもりの増加が課題となる中、不登校の長期化からひきこもりに移行することが懸念されることから、学校からの支援が難しい、進路が定まらないまま学校を卒業・中退した青少年に対し、地域で支援を継続できるよう、学校と地域の連携体制を確保する。						
事業概要	兵庫ひきこもり相談支援センター地域ランチ(※)に、「青少年地域支援員」を各1名配置し、学校との連携により情報収集等を行いながら、卒業・退学後の本人・家族に対する相談支援を実施する。 ※県内5箇所(阪神・播磨・但馬・丹波・淡路)×各1名×週4配置						
令和6年度当初予算	20,833千円	(国庫) 4,932千円	(特定)	0千円	(起債)	0千円	(一般) 15,901千円
評価	指標名	5年度見込	6年度目標	7年度目標	最終目標	設定の考え方	
	成果指標(アウトカム指標①)					【設定の考え方】 学校から離れた青少年に対して支援を継続できる体制の整備が目的の事業であることから、青少年等からの相談件数を支援継続の成果とみなし、アウトカム指標として設定 【目標数値の考え方】 R5相談件数見込み +R6:250件、R7:500件、R8:750件加算 (R6:各ランチが週1回相談支援実施≒年間50件×57ランチ=250件加算、以降年度は週あたり相談支援実施件数を週1回ずつ増加) ※取組開始後は、学校との関係構築に注力し、その成果によりR7以降、相談件数が増加すると想定 ※制度拡充のR6から3年間が経過するR8までの間で、累計4,500件を区切りとして目標を設定 ※なお、ひきこもり者数は、内閣府がアンケート調査(抽出調査)を基に全国146万人程度(R5末時点)と推計し、これを人口按分のうえ本県のひきこもり者数を推計しており実数把握が困難であることから、指標として設定することは適切でない判断	
	地域ランチにおける青少年(及びその家族)からの相談件数 ※R5はランチ職員による相談対応、R6～は青少年支援に特化した地域支援員を配置のうえ体制を強化	1,000 (単年度)	1,250 (単年度)	1,500 (単年度)	4,500 【R6～R8】 (累計)		
	成果指標(アウトカム指標②)					【設定の考え方】 学校との連携体制が構築されることにより、学校からの相談件数(問合せ等を含む)が増加すると想定 【目標数値の考え方】 R6:県内中学校248校×1/10≒25件 (以降年度は件数増加を見込む)	
	学校からの相談件数	—	25	50	150 【R6～R8】 (累計)		
	成果指標(アウトカム指標③)						
	活動指標(アウトプット指標①)					【設定の考え方】 訪問により学校との関係性を構築し、情報共有を行うことと、学校を中退・卒業した青少年の情報の適時把握に努める 【目標数値の考え方】 県内中学校248校(神戸市は市の支援があるため除く)を2年間で訪問 ※2年間で1サイクルとして、以降継続	
	学校訪問数(5地域ランチ合計)	—	124 (単年度)	124 (単年度)	124 【R8】 (単年度)		
	活動指標(アウトプット指標②)						
	活動指標(アウトプット指標③)						
目標	終期設定	有・ 無 (下記改善基準により見直しを検討)					
	改善基準	目標の達成率が80%未満となった場合に、事業の実施手法を見直す。					
会 外 部 委 員 見	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標については、適切に設定されている。 ・相談案件より得た情報から、次にどのような施策に繋げていくか意識した事業設計が必要である。 ・相談の質の向上のため、相談を受けた後に「相談して参考になったかどうか等」簡単なアンケートを実施することも検討してはどうか。 						
見直し結果							